

市政に対する一般質問一覧表

平成28年第1回定例会

質問順位 1

議席番号 4番

氏名 奥本 菜保巳

質問方式 一問一答 質問時間 20分

質問事件	質問の要旨
<p>1. 子育て支援について</p>	<p>子ども医療費無料化について</p> <p>少子化対策の一環で子ども医療費無料化に取り組んでいる自治体が増えている。現在、三沢市では中学卒業までの子どもの医療費が無料となっている。しかし、所得制限があり、対象外の方々から所得制限撤廃の切なる声が上がっている。そこで次の点について伺う。</p> <p>①子ども医療費の実状について</p> <p>②所得制限を撤廃すべきと思うが当市の見解について</p>
<p>2. 生活保護制度について</p>	<p>近年の生活保護改定に伴い、3段階にわたり、生活扶助基準の引き下げが行われ、最後のセーフティネットとしての機能が脅かされている。さらに、冬季加算が引き下げられ、厳しい状況に追い込まれている。そこで次の点について伺う。</p> <p>①生活扶助・冬季加算の引き下げにより、保護費は改定前と比較してどの程度減額になっているか。</p> <p>②冬季加算の引き下げにより、影響を受ける世帯数はどうか。</p> <p>③冬季加算については、疾病や障がいがある方に対しての例外規定、特別基準が適用されるとし、当市として、柔軟に対応すべきと思うが、見解を伺う。</p>
<p>3. 市庁舎のバリアフリー化について</p>	<p>市庁舎の出入口アプローチにおいて、肢体不自由な方、高齢者の方々が転倒したり、つまずいたりしているとの目撃情報があった。また、トイレは和式が多く、手すりも設置されていない。国土交通省の官庁営繕部では、ユニバーサルデザインの実現をめざした、人にやさしい官庁施設の整備を推進しているが、当市としても出入口アプローチ、トイレのバリアフリー化の再整備が必要であると考えます。当市の見解を伺う。</p>

質問事件	質問の要旨
1. 行政問題	<p>1. 路面下空洞調査について 本年1月、異常箇所5箇所のうち2箇所でスコープ調査を実施した結果、2箇所で空洞を確認しました。そのことから次の3点を伺いたい。</p> <p>①今回実施したサンプル調査結果についての所感を伺いたい。 ②市が想定している調査距離数と、調査計画を伺いたい。 ③発注方式について、技術を適切に評価し、調査の品質向上につながる総合評価入札方式に対する、本市の見解を伺いたい。</p> <p>2. 英語に触れる環境づくりについて 国際文化都市をめざす本市において、日常的に英語に触れる環境づくりを進める一環として、マックテレビでの番組づくりについて、その見解を伺いたい。</p> <p>3. 移動式「赤ちゃんの駅」の導入について 乳幼児を抱える親子の外出をサポートする、移動式「赤ちゃんの駅」の導入について、本市の見解を伺いたい。</p>
2. 民生問題	<p>婚姻届を提出する際の記念撮影について</p> <p>①三沢市に婚姻届を提出する件数は、およそ年間何件であるか。 ②人生の節目をお祝いするため、「ウエルカムボード」を作成し、希望する方に記念撮影を行ってもらう取り組みについて、本市の見解を伺いたい。</p>
3. 福祉問題	<p>ひとり親家庭への支援について</p> <p>国においては、ひとり親家庭への支援策として、児童扶養手当の拡充などの経済的支援のほか、親の就業を支援する施策が手厚く盛り込まれました。</p> <p>このことから、本市における就労支援や情報の周知方法等について伺いたい。</p>
4. 健康問題	<p>生活困窮者自立支援法における社会的孤立（引きこもり等）への対応について</p> <p>現役世代の不就労者・引きこもりの増加は、地域の活性化を防げるだけでなく、高齢家庭の負担ともなっています。地域で就労できずに引きこもっている実態を調査し、支援策の実施が求められていますが、これまで寄せられた相談件数は何件であり、どのように対応されてきたのかを伺いたい。</p>

質問事件	質問の要旨
1. 観光問題	<p>斗南藩記念観光村及び先人記念館の今後の運営について</p> <p>平成27年度は、斗南藩記念観光村及び先人記念館の20周年にあたることから、廣澤安任をはじめ、この地域の発展に尽くした人々の業績を顕彰する特別企画展が開催されました。そうした中、三沢市の観光資源として同施設は、今後どの様に活用されるのでしょうか。そこで以下について伺います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①企画展の実施内容及び検証について ②同施設の今後の運営方針等、今後のあり方について ③廣澤安任のお墓の対応について
2. 行政問題	<p>2020年の東京オリンピック・パラリンピックの合宿誘致について</p> <p>三沢市は、昨年11月に2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピック大会を地域活性化に活かすための合宿誘致における活動方針を策定しました。</p> <p>そこで以下について伺います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①誘致活動の進捗と来年度以降の関連事業の取り組みについて ②誘致活動にある「国際教育」の概要について
3. 教育問題	<p>「三沢市民の歌」及び「市民の誓い」の活用について</p> <p>市主催の成人式で「三沢市民の歌」の斉唱、「市民の誓い」が朗読されている。</p> <p>市主催の行事で「三沢市民の歌」及び「市民の誓い」の活用については、対応が様々であるが、そこで以下について伺います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①市の行事における「三沢市民の歌」及び「市民の誓い」の活用方針について ②市内、小中学校における「三沢市民の歌」及び「市民の誓い」の指導について

質問事件	質問の要旨
<p>1. 政治姿勢問題</p> <p>2. 行政問題</p>	<p>「地方創生」への取り組みについて</p> <p>地方は中央依存から離脱して、地方と世界が関係を持って多様化と個性化へアプローチし関わっていくことが、地方の活性化への大きな原動力である。</p> <p>本市は他市と比較し、国際色という多様な特性や資質がある。青森県の国際核融合研究施設の取り組みに合わせ、本市の特性を活かし、国際移住ゾーンや国際産業技術交流センター並びに空港や鉄道等の地域間の道路交通体系の整備をはじめ、学校、文化、青少年の研修交流などを含む国際文化交流や国際高等教育機関の設置を図り、真の国際的に開かれた「国際交流都市」構想を「地方創生」への取り組みで明らかにし、「国際交流中核都市」の宣言を打ちだし、全国的に見て実験都市を目指すべきと思うが、その取り組みを問う。</p> <p>定住対策構想と土地利用計画について</p> <p>街づくりは限られた土地の有効活用と市民の能力向上のほか、本市が持つ優れた個性と特性を最大限活かすことにある。</p> <p>人間は何に魅力を感じるか。魅力ある社会づくりとは何か。今一度、原点に立ち返って、本市の広域の都市計画の中で、何を見直してどう対策を位置付けるか。明確な方針を打ち出さなければならない。</p> <p>本市の堀口地区の農地の周りは、商業施設や多くの事業所及び住宅に囲まれ、市街地化してきているのが実情である。一方、この地区の農業者は担い手がなく、耕作放棄地が急速に増大してきているのが実態である。</p> <p>本市にとって、堀口地区の農地の土地利用計画は、南山地区と大津地区との一体感が図られることに相なり、本市の地域開発の活性化に繋がる大きな重要課題である。本来土地は所有するためではなく、利用活用のためにある。その土地利用の推進と調整者として、自治体は農振法等の解消問題に対し、土地有効利用の観点からリーダーシップを発揮すべきである。広域的な市街地化にある堀口地区の土地利用を図り、国際文化都市として開発に挑戦すべき時と思うが、その将来のビジョンがあるか問う。</p>

<p>3. 商業問題</p>	<p>郊外大型店進出と商業者の共生について</p> <p>近年、地価の安い郊外にショッピングセンターを核とした商業施設が進出し、地元の商業者にとって大きな変革の時代を迎えている。加えて現代の車社会の中にあって、既存の商店の集客力が低下してきているのが実態である。かつて栄えた本市の商店街はなぜ衰退が進むのか。それには、そのまちの魅力の低下や、駐車施設の不備及び商店会組織の力量低下などが指摘されているが、基本的には、歩行者の通行量の増減に左右されると言われている。中でも地元定住人口が、小売業に決定的な影響を与えることになる。</p> <p>本市の状況は、定住人口の移動で結果的に中心部の人口空洞化が進み、「交流人口」も中心部から郊外へと流れ、加えて、幹線道路網の整備が図られ、駅の利用者の減少等で中心商店街は、買い物なしの通過道路となり、更に消費者の行動の選択化と広域化が、減少の理由である。この実情に対し、中小小売業と郊外集積型店が共存できるよう、旧来の慣習を改め、新しい体制で本市の商業振興策に取り組むべきと思うが、その考えを問う。</p>
----------------	---